

光

My Garden Story Part.14

夜の住空間を魅せる、光の演出。

L i g h t i n g P r o d u c t i o n o f N i g h t

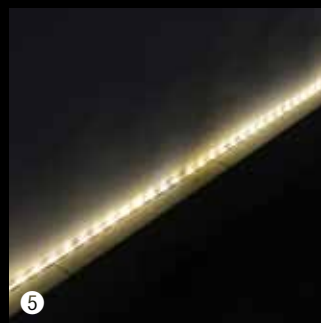
光があれば、夜は美しい。影を生み出し輪郭を際立たせ、暗闇を幻想的に、あるいは華美に演出してくれるから。そんな光を自在に操ることができれば、理想的な夜の世界を手に入れることができる。今回は、この湘南エリアでそんな夜の世界を実現した住空間を紹介しよう。

取材・文◎野神由紀子
text by Yukiko Nogami
撮影◎漆戸美穂
photos by Miho Urushido
写真提供◎Heaven's Garden

光と影を自在に操り、
闇夜の空間を切り取る



- ① 白い門柱を立体的に映し出す、至近距離下部から放たれた2つの光。アイアンのアーチのシルエットとシンメトリーの美しさも際立っている
- ② 地面に埋め込んだ丸い照明が、表札となる「K」のイニシャルを幻想的に浮かび上がらせる。優しい影を作るべく、照明の角度も調節されている
- ③ 真下からではなく、少し離れた距離から光を当てられたオリーブの木。漆喰の白壁に優しい樹影を落としている
- ④ 光と影のみで構成された華美な夜の顔。ここで使用されているのはすべてLED。コストは電球の約1/10というエコな光の演出だ



- ⑤ 漆喰で塗られた基礎の部分を照らす一列の光。漆喰の質感が手伝い、柔らかな光となった
- ⑥ テーマは“湘南エレガント”。太陽が地上を照らすころ、優雅で爽やかな表情へと変わる

ますが対象物のはぼやけてしまうため、インパクトに欠けてしまうんですよ」
それにしても、辺りを見渡しても照明器具があまり見当たらない。
「小さな器具を植栽の足元に隠したり地面に埋め込むことで、自然にすっきりと仕上げました。主役は“映し出される物”であり、あくまでも照明は主役を引き立てる名脇役ですからね」
ただ照らすだけではない工夫が、そここに施されているのだ。

「全体を見せて完結する日中のデザインとは異なり、夜は見せたい部分を絞り、そのディテールを強調します。“空間切り取り型の演出”とでもいいでしょうか。そのために必要なのが、光。今回は見せたい物の至近距離の下部から光を当てました。そうすることではっきりと陰影が付き象徴的な存在となります。逆に遠くから照らしてしまうと、光の面積は増え

「全体を見せて完結する日中のデザインとは異なり、夜は見せたい部分を絞り、そのディテールを強調します。“空間切り取り型の演出”とでもいいでしょうか。そのために必要なのが、光。今回は見せたい物の至近距離の下部から光を当てました。そうすることではっきりと陰影が付き象徴的な存在となります。逆に遠くから照らしてしまうと、光の面積は増え

「全体を見せて完結する日中のデザインとは異なり、夜は見せたい部分を絞り、そのディテールを強調します。“空間切り取り型の演出”とでもいいでしょうか。そのために必要なのが、光。今回は見せたい物の至近距離の下部から光を当てました。そうすることではっきりと陰影が付き象徴的な存在となります。逆に遠くから照らしてしまうと、光の面積は増え

「全体を見せて完結する日中のデザインとは異なり、夜は見せたい部分を絞り、そのディテールを強調します。“空間切り取り型の演出”とでもいいでしょうか。そのために必要なのが、光。今回は見せたい物の至近距離の下部から光を当てました。そうすることではっきりと陰影が付き象徴的な存在となります。逆に遠くから照らしてしまうと、光の面積は増え

光の演出で魅せる
幻想的な夜の顔

茅ヶ崎市 K邸

都会から最も近いリゾート地、湘南。その名に相応しく、太陽が似合う優雅な住空間を訪れた。しかし月が昇るころ、その姿は、光と影で構成された華美な表情へと変わるのだった。



光、家、暖かさ。
その中で暮らしたい。

エクステリア・ ガーデニング ウッドデッキの専門店



ヘブズガーデン代表
柿崎 浩司

資格：二級建築士 インテリアコーディネーター
趣味：サイクリング
2003年テレビ東京系
『TVチャンピオン(ガーデニング王決定戦)』に出場



ヘブズガーデン
〒252-0813 藤沢市亀井野 1515
Tel:0466-90-0555

☎0120-08-6658
www.heavens-garden.co.jp

ヘブズガーデン

検索



- ⑦ スポットライトを駆使した光の演出が目を楽しみ、芸術的な植栽スペース
- ⑧ 玄関への階段横には、大きなヤシの木を照らす光が。趣きある陰影が生まれた
- ⑨ 黒い石の荒々しい質感が、光と影の輪郭をより鮮明に作り出している
- ⑩ エントランスの間接照明。ゆず肌仕上げの塗り壁の質感が美しく浮かぶ
- ⑪ 日中の植栽スペース。鮮やかな緑が映え、夜とは異なる魅力が見られる
- ⑫ 夜の重厚感や荘厳さから一転、太陽が昇ると爽やかな表情へと変わる

My Garden Story Part.14
Lighting Production
of Night

光

光と影が描く絵画のような空間

湘南の海岸線で、黒をメインカラーに設計されたひと際目を引くA邸。ここでは、実に興味深い光の演出に出合える。それはまるで一枚の絵画を見ているかのような空間なのである。

鎌倉市 A邸

間接照明が作り出す 光と影の立体アート

潮風届くA邸における光の演出の要となっているのは、通りに向けて設けられた植栽スペースである。

「1階の壁は薄いグレーで、ほとんど窓がないなど、光と影が映える要素が揃っていました。そこで提案したのが、壁の前に植栽スペースを設け、植栽の影を壁に映す光の演出です」

真下から照らされ壁に長く伸びる植栽の影は実にダイナミック。さらに、黒い石のタイルにも光の演出が施され、荒々しい石肌は上に行くほど影が黒く強く浮かび上がっている。日中見るよりも雄々しく立体的な迫力が感じられるのだから、光の力は実に偉大だ。

「後ろの壁がキャンバスに、そして二本の石の柱が額縁になり、結果一つの立体アートのようにまりました。この仕上がり感、間接照明の醍醐味ですね」

こうして光は柿崎さんに操られ、太陽に照らされた時とは全く異なる魅力的な夜の世界を造り出すのである。